

誇れる北中の実現 できる! だれでも! どこまでも!



早いもので、明日からもう夏休みです。そして、そうこうしているうちに、すぐに夏休みは終わります。時間は有限ですが、可能性は無限です。うまいこと言いたかったわけではありません。今、改めて北中生の無限の伸びしろを感じているのです。彼らはある働きかけで、グングンと伸びると確信します。その力が下の図です。

四月の町学力調査のアイチェック(学習状況調査)の傾向なのですが、相談できない、発表・発言できない、手助け・参加できない割合が高い傾向があります。その要因が、赤で囲んだ「友達も本音ではどう思っているか不安」と思っている生徒の多さです。相談できた方が、発言できた方が、誰かを手助けできた方が、いいんだということは皆わかっているのです。けれども、周りの目が気になって、又は一部の心無い声を恐れて、行動に移せないという状況なのです。ちなみに、「ちいーっと」ずつ良くなっている挨拶も、生徒の言い分では、

i-check (心の状況)	
先生のささえ	先生や親に相談できない: 5割、3割
発信力 対話・話し合い	意見を発表したり、先生の質問に答えることがなかなかできない: 8割 自分なりに考えて発言することがなかなかできない: 6割
社会参画	困っている人になかなか手助けできない・地域の行事に参加できていない: 4割
対人ストレス	友だちも本音ではどう思っているか不安: 4割

できないのではなく、恥ずかしいからしないのだそうです。これも同じ理屈です。生徒たち自らがピンと張った緊張の糸を解きほぐし、それぞれの糸をつないでいかねばなりません。うまいこと言いたかったわけではありません。これが、北中の課題なのです。

私は、火曜日の人権集会でそのことを生徒に伝えていきました。言語環境のアンケート結果にも、前述のアイチェックと同じ傾向がありました。誰もが暴言や悪口はよくないとわかっているのに、「悪口やめろ」等止める言葉が出てきづらく、出てきても抑止力になるほどの広がりがないのです。話の締め「仲間を信じて声をあげ、仲間を信じて言葉を受け止めて」と訴えかけて話を終えました。冒頭の生徒がグングンと伸びる働きかけは、私たち大人たちによる本気の共通実践です。いかなる理由があろうが、人を傷つける言葉は許されないということを、教師、保護者、地域住民等それぞれの立場で、同じ熱量で、伝え続けていく「働きかけ改革」です。すみません、またうまいこと言いました。



納涼! ホットスペースのワークショップで作られた金魚たち。涼しげ、いやアツい魚群か…。※本文とは特に関係のない写真です。